

＜ もくじ ＞	
1. 第3回連続講座「グリーフケア ～哀しみとともに生きる～」の報告	1
2. 長期計画検討委員会の報告	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	6

1. 第3回連続講座「グリーフケア ～哀しみとともに生きる～」の報告

1) 日 時：12月18日（土）14：00～16：00

2) 講 師：中村昌子（一般社団法人シニア社会学会運営委員、市川市教育委員会外国語指導員、地域猫活動ボランティア、グリーフ専門士、ペットロス専門士、外国語活動指導員）



3) 概 要：オンライン開催で、参加者は18名でした。講師の中村昌子さんはこれまで何度か仕事を変えつねに新しいことに挑戦してきましたが、その人生において積み重ねて来た経験は、周囲の人や動物への思いやりと愛情に基づいておりそのことがお話の内容に説得力を与えています。今回のお話は、身近な人やペットなど大切にしているものを失うことで抱える「グリーフ」、つまり「喪失による悲嘆とその悲嘆による身体の反応」について、ご自身の人生を振り返りご両親をはじめ愛猫の失った経験をも開示しつつわかりやすく解説し、現代日本での現状とその問題解決のための実践方法を紹介されました。そのあと、参加者がグループに分かれて進行役としてリーダーが入り、ブレイクアウトルームを行いました。そこでは、①本日のテーマのお話についての感想、自分の体験、意見、②日本で普及していない「グリーフケア」の実践を周囲に広めていくための方法、について参加者全員が話をする機会を持つことができました。それぞれの「グリーフ」経験を語るなかで、語ることの困難さ、人の死についてもグリーフのきっかけや程度はさまざまであること、毎日のメダカの餌やりや千羽鶴折などグリーフの癒しの自らの方法を紹介され、周知の方法では、話しやすい場の重要性、オンラインや電話、SNSを使うなど、参考になり有益なお話も聞けました。終了後に行われたアンケートの結果をいくつか紹介しておきます。

*自分自身、今年母を亡くしたばかりで、深い悲しみを経験し、中村講師の解説をはじめ皆さまからも貴重な経験談を伺い、とても参考になりました。私も、今後周囲の方でも同じような経験をされた場合に、これを参考に何かのお役に立つよう活用できればいいと感じました。

*グリーフケアという言葉は初めて聞いた人もいたので、取り上げてよかった。動物福祉の原則は、結局、人間にも当てはまる。北朝鮮やアフリカに暮らす人々について、そんなことを感じてしまいました。

*現在の世の中、なかなか人と交わることが無くなりつつあります。話し合わなくても一緒にいる事の安らぎもあるでしょう。また一人になってもその安らぎは続くものと思います。

時にはこのようなお話も、自分の人生を見つめなおす機会でしょうか？

*自分の経験はグリーフの程度が深いとなかなか話せないが、深すぎてそれに押しつぶされそうになって初めて人に助けを求めるとは思いません。

また最後に中村さんから、人間と動物と環境の関係の変化についてのお話も付け加えられました。近年では、家畜としての牛、豚、ニワトリの育て方が変わり「動物福祉」という言葉も使われるようになったことが、「グリーフケア」の考え方も相互に反映しているということです。

2. 「長期計画検討委員会」からのご報告

2021年2月に発足したシニア社会学会長期計画検討委員会は、12月まで毎月1回開催し、これまでに11回開催いたしました。JAASNews262号では、5回までの委員会の検討概要をご報告するとともに会員アンケートへのご協力をお願いいたしました。8月20日から9月3日までの期間で実施したアンケートでは、皆様にはご協力をいただき、ありがとうございました。

アンケートは、63名の方から回答をいただき、回答率は43%でした。回答者の年齢分布は、男性は70代以上が7割を占めていますが、女性は40代から80代まで幅広い年齢層となっています。この傾向は会員の年齢分布ともほぼ一致しています。このことから、今まで言われてきた、「シニア社会学会会員は退職後の男性が多い」という傾向から変化してきていると思われる。なお、アンケート結果の詳細は2022年3月13日(日)午後から開催予定の報告会(Zoom開催予定)でご報告する予定です。

アンケート実施と併せて委員会では、事務局担当者の高齢化に伴う学会運営(事務局)健全化についても検討を進めております。さらに、アンケートの回答から見えてきた、シニア社会学会のアピールポイントならびに会員の皆様がお持ちのシニア社会学会の現状イメージと期待イメージなどから、今後の活動の具体的な方向をまとめていく作業を進めています。また、新たに作成する予定のチラシに利用するためにシニア社会学会の「キャッチコピー」を作成してはどうかとの意見が委員から出され、会員の方のご協力をいただきながら、来年総会までに決定する予定であります。

次号のJAASNewsでは、長期計画検討委員会で検討されているシニア社会学会の長期的視点について、報告いたします。なお、3月13日の報告会のプログラムや申込み方法については、後日JAASNewsとホームページにてお知らせいたします。

会員の皆様には、今後とも学会活動へのご協力をお願いいたします。(森 記)

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第63回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2021年12月22日(水) 18:00~20:00

2) 開催方法：Zoomによるオンライン会議方式

3) テーマ：「東北の外国人の現状—東日本大震災の影響も踏まえて—」

4) 講 師：李 善姫〔イ・ソンヒ〕(東北大学東北アジア研究センター、プロジェクト研究部門災害人文学研究ユニット・助教、<専攻>社会人類学(ジェンダー人類学/災害人類学/移民研究)

5) 主 催：早稲田大学「地域社会と危機管理」研究所

共 催：シニア社会学会「災害と地域社会」研究会、科研Aプロジェクト「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」

※ 参加ご希望の方は、12月22日開催時間までにメールでご連絡いただければ、Zoomの招待URLをお送りしますので、長田までメールでお申し込み下さい (ptb00052@nifty.com)

(2) 第77回「シニア社会のリテラシー」研究会のお知らせ

1) 日 時：2021年12月23日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「デジタルで変わる社会について」

4) 発表者：安田 和紘

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願い致します

(3) 第17回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2021年12月25日(土) 18:30~20:30

2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)第一特別講習室

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：生きづらさを考える

びしょうざ

劇団 「B笑座」第5回。

「私にとって 認知症とは」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(4) 第137回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年1月19日(水) 18:00~20:00

オンライン新年会：いつもあわただしくて皆様に十分ご発言していただく機会がありません。お酒かお茶を飲みながら、近況報告や研究会へのご希望など自由にお話し合いをしたいと思えます。

2) Zoomで開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(5) 第27回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2022年1月19日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom開催

3) 概 要：「監視資本主義」(ショシャナ・ズボフ著 野中香方子翻訳, 東洋経済新報社)の解説(齋田さん) つづき、参加者からの感想・思うことなど

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(6) 第28回 「ライフプロデュース」研究会のお知らせ

1) 日 時：1月下旬 ZOOM開催

2) テーマ 未定 2021年の抱負 他…。

◆ 読書会 前回の続き

[THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか | 書籍 | ダイヤモンド社 \(diamond.co.jp\)](https://www.diamond.co.jp) 第7章~最終章まで。

※ 日程について、また、当日ご参加ご希望の方、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までお気軽にご連絡ください。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第135回 「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2021年11月17日(水) 18:00~20:20

2) 報告者：加藤 馨(社会福祉法人長寿会 理事長)

3) テーマ：「外国人介護職員受け入れの取り組み——国際連携を強化し、地域とアジアの福祉の向上のために——」

参加者：16名

外国人介護職員には、EPA(経済連携協定)、在留資格「介護」(留学生や技能実習生として来日し、一定の経験を積んだ後に、介護福祉士資格を取得)、技能実習生、特定技能の4種がある。長寿会では、2016年にベトナムからEPAの介護職員を受け入れている。全員看護師の資格を持ち、日本語能力も高い。受け入れの目的は、圧倒的な介護人材不足にある。外国人介護職員は年々増加しているが、今日、中国や韓国の高齢化が進行して人材不足に直面しているため、東南アジアの人材獲得競争が激化することが予想される。

日本での生活・就労支援として、①生活基盤の確立(住居、家具、電化製品など)②コミュニケ

ーション力の向上③職場への適応（日本の生活習慣への適応）④日本語能力の向上（資格取得のための研修）を行っている。採用1～2年目には報告書作成、申し送り、夜勤などができるようになり、3～4年目には、国家資格取得に向けて専門学習、緊急時対応、後輩への指導などを行っている。介護人材不足は深刻化しており、官民協力して外国人の就労を支援し、アジア諸国全体の介護・福祉の向上を図りたい。

質疑では、外国人介護職員を受け入れるための工夫（現地での面接に職員を同行、職員宅にホームステイ、ゆっくり話す、夏祭りへの参加など）、日本語の能力向上のための支援（週1回の専門学校での勉強、月2回の日本語教師訪問など）、日本政府の姿勢（EPAに比べて技能実習生や特定技能への支援があまりにも不足、外国人を労働力とみなし生活者として捉えていない、移民政策がないなど）が明らかにされた。外国人の資格取得者が帰国してしまうことについては、帰国後、現地で活躍することでアジア全体の福祉の向上に役立てればよい、皆さんやさしい日本語を使いましょうという意見が出された。日本政府は、外国人労働者をもっと大切にしなければ、介護人材不足に対処することは不可能であり、利用者はサービスの縮減を余儀なくされるだろうという暗い予測で締めくくられた。（袖井孝子 記）

(2) 第25回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2021年11月24日（水） 15:00～17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：「AIと情報処理」（安田和紘さん）

あらかじめ配布してある、資料に沿って説明があり、次のようなメンバーからのコメントがありました。

- ・今や「デジタル技術の陰の部分はどう抑えるか」の具体策が必須の段階になっている。
「操られる民主主義（Bartlett 著）」と同じく、ショシャナ・ズボフ「監視資本主義」はそれを訴えたベストセラー。→次回に解説いただくことになった。
- ・スマホを持つことの危険性を知っておく必要がある。ただ、それはシニアが使えるようになった先のことと考える。
- ・資料の中で、「AIを支える技術」として五大装置が書かれているが、これはAIではなく情報処理のハードウェアの基本的なこと。教科としての情報処理では、シラバスのここから入るのではないかな？
- ・以前は高校の家庭科に「情報」が入っていた。2000年ころ情報の教員免許は、理科・数学・家庭科の教員が講習会をうけて取得できた。
- ・エストニア（IT 国家）の高齢者に ICT のメリットを聞いたアンケートがある。メリットとして「時間の節約になる」という回答率が高く、使えるようになるとメリットを感じるようになるようだ。
- ・市民大学の受講生の平均年齢は70歳くらい、PC やスマホをよく使っている（株やバンキング）など。
- ・技術革新が早すぎて、一つの物に慣れるとすぐ次、になってしまう。新しい技術に慣れるのが大変。
(森 記)

(3) 第76回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2021年11月25日（木） 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「青鞥の女性たち/平塚らいてうと伊藤野枝を中心に」

4) 発表者：堀江 副武

5) 概 要

ジェンダー問題、女性活躍問題が大きな社会・政治問題になっているいま、今回のテーマは大変タイムリーであり、討議も熱く盛り上がりました。発表者の堀江さんは冒頭に、「元始、女性は太陽であった。」と述べた平塚らいてうを高校時代に知り、その後興味を持って何冊かの本を読み、今回レポートを作成したと述べられた。

文芸誌『青鞜』は、明治44年(1911年)に創刊。部数は1,000部。事実上の原動力は、平塚らいてうであった。『青鞜』は本来の目的である女流作家の育成というより、付随的位置づけである「新しい女」の創造というイデオロギーを持つ様になり、良妻賢母型女性からの脱皮を目指した。『青鞜』という誌名の由来は、英語のブルー・ストッキングを訳したものだが、ヨーロッパでは普通は黒色のストッキングを履くが、18世紀ロンドンのモンタギュー夫人のサロンに集まった進歩的夫人達が紺色のストッキングを履いたことに因み、生田長江が命名した。

伊藤野枝と平塚らいてうとの出会いは、辻潤を通じて『青鞜』を知った野枝がらいてうを訪ねたことが最初であり、その後やる気満々の野枝(当時20歳)はらいてうから全てを引き継いで、1915年1月号をもって『青鞜』の発行責任者になる。『青鞜』は1916年2月の第六巻第二号をもって、無期休刊(事実上の廃刊)となり、野枝が引き継いでから1年4ヵ月、創刊されてから5年6ヵ月あまりで消えるのである。

また、らいてうと野江二人を取り巻く人々である、森田草平、尾竹紅吉、奥村博史、辻潤、大杉栄、神近市子などについても興味深い話をされた。発表の後、活発な意見交換が行われたが、最後に濱口座長はコメントとして、当時の女性たちの活躍を『世間』と関連付けて解説された。らいてうと野枝の2人の違いは、『世間』の違いであること。野枝は平民の出であり、らいてうは士族出身であった。2人は『世間』に対して挑戦したことであると述べられた。そして『歴史とは現在と過去との対話である』との言葉で締め括られた。(島村記)

(4) 第27回 「ライフプロデュース」研究会開催報告(ZOOM開催)

1) 日時:2021年11月30日(火曜日)17:30~19:30

2) 参加者:計8名

3) 概要

【前半:読書会】

◆ THE LONELY CENTURY なぜ私たちは「孤独」なのか | 書籍 | ダイヤモンド社 (diamond.co.jp) テーマ:第5章「コンタクトレスの時代」・第6章「私たちのスクリーン」,「私たちの自己」について、ファシリテーターより要旨の発表の後、フリートークへ移る。

(参加者の発言内容抜粋)・コロナ禍以降、最近とはくに「会話」の頻度や時間が大きく減少し、自分の世界に閉じこもることが増えている。・徐々に会話をする、口が上手く回らないことも。・気が付くと自分が「無表情」になっていると感じることもあり、以前のコミュニケーションとは違ってきている。・都内でも、公園内などで、「手を差し伸べるべき人々」を排除するようなデザインも見受けられ、複雑な心境になる。・最近、スマホを使用する時間が増えており(1日3時間以上)、意識的に「家族との会話」時間も増やすよう心掛けている。・昨年来、メールだけでなく、「電話」で友人と会話する時間は増えている。メールだけだと、どうしても「気持ち」が伝わらないことも多く、とくにこの時期は、意識的に「電話」でのコミュニケーションを大事にしている。・「ICT機器」になじんでいく気持ちも大切である。・現在は、電車内では8割以上の人たちが、スマホを使用している。起床後すぐスマホ・チェックし、終日スマホに意識がいつている自分がある。・「スマホ依存症」への危険を感じている。・「電話」だと、相手の時間を奪う恐れありで、極力「メール」を活用している。・小学校の授業で、「所作」の指導も行い感謝されているが、「所作」は対面でないと難しく、あらためて「対面授業」の重要性を感じている。・故瀬戸内寂聴さんは、「孤独は当たり前」であり、「けっして悪いことばかりではなく、むしろ孤独を受け入れる覚悟を持つことが大切」と説いている。・「スマホ」は、使用する”メリット”と”デメリット”と両方あり、その使い分けが重要ではないかと思う。・「対面交流」ばかりでは”疲れる”ことがあり、また「SNSと向き合う」ことばかりでも、やはり”疲れる”ので、その両方の「バランス」が大事だと感じる。

(若井泰樹 記)

【後半】「女60歳還暦を迎えて 言いたい放題 やりたい放題」の連載を終えた、ジェシカさんこと寺本真子さんの振り返りを聞いて、参加者が一人ずつ、感想を述べた。

ジェシカこと寺本眞子です。還暦を迎え何か自分の人生に節目を付けたいと思い立ち「女 60 歳還暦を迎えて 言いたい放題 やりたい放題」と題して つたないエッセイを書かせて頂く機会を頂き有難うございました。他人様に読んで頂ける文章など書けるか不安は多々ありましたがそこはチャレンジ精神旺盛なジェシカこと寺本はハードルをのりこえ挑戦させて頂くことができました。気づくと 新しいことに挑戦することが少しずつおっくうになり、またそんなチャンスも減ってきていたことに気づかされました。この連載中は今までになく丁寧に世の名の動きに目がいくようになっていたと思います。本当になりたかった自分はどんな人だったのだろう？ ずっと、しこっている親子関係をどう受け入れたらいいのだろうか？ これからの人生 晩年に向けて私の夢ってあるのだろうか？ 世の中の変化に自分はどこまでついていけるのだろうか？ 仕事の引き際ってどうしたらいいのだろうか？等々 ずっと考えずにいた疑問に向き合うことができた期間だったと思います。日々の生活に追われて立ち止まって考えることをしてこなかったからこそ じっくり向き合える良い機会だったと思います。(寺本眞子 記)

5. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・e メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

<1月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第269号の発行日は、1月26日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、1月19日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

<JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしているJAAS Newsは、原稿が集まった後、Microsoft Word を用いて編集・レイアウトを行い、皆様にお届けしています。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。

会員の皆様のなかで、Microsoft Word を用いた編集・レイアウトの経験をおありの方に、無償ですがお手伝いをお願いできたらと思っております。

手伝いをしてほしいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jpにてご連絡ください。よろしくお願いいたします。

<年末年始休業のお知らせ>

事務局業務は、12月25日（土）～1月10日（月）は、例年通り休業いたします。休業中は、電話・FAXはご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、1月11日以降に出来るかぎりeメールでお願いいたします。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせいたします。

会員の皆さまには、年の瀬ご自愛いただき、良き新年をお迎えください。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月1回オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>